

第1編

事業報告概要 (平成19年度)

1. 事業の概要

1-1 参加大学名（設置者名）

- 順天堂大学大学院医学研究科及び医療看護学研究科

学校法人順天堂（東京都文京区本郷2丁目1番1号）

理事長 小川秀興（事業推進代表者）

- 新潟大学医歯学総合研究科

国立大学法人新潟大学（新潟県新潟市五十嵐二の町8050番地）

学長 長谷川 彰

- 東京理科大学大学院薬学研究科

学校法人東京理科大学（東京都新宿区神楽坂1丁目3番地）

理事長 塚本桓世

- 明治薬科大学大学院薬学研究科

学校法人明治薬科大学（東京都清瀬市野塩2丁目522番1号）

理事長 住吉義通

- 立教大学大学院理学研究科

学校法人立教学院（東京都豊島区西池袋3丁目34番1号）

総長 大橋英五

1-2 プログラム名

文部科学省 平成19年度 「がんプロフェッショナル養成プラン」

1-3 事業名称

実践的横断的がん生涯教育センターの創設

1-4 本事業の概要

本取組は、「がん患者の視点」に立った、「裾野の広い、且つ高い、品性」のある「がん医療」を目指し、大学の改革実践の「場」として「がん生涯教育センター」を創設するものである。

具体的には、本プラン実施に当っては、順天堂大学（以下「本学」という。）附属6病院（所在地：東京、千葉、埼玉、静岡）の有するベッド総数3199床に加えて、養成環境をさらに充実させるため、新潟大学とがん治療において高い臨床能力養成実績を持つ国立がんセンター（中央病院・東病院）、静岡県立静岡がんセンター、癌研有明病院、東京都立駒込病院等と連携を結び、教育研究・診療環境を整備した。

またコメディカル養成については、連携している3つの大学院との協力を強化した。本プランによって、患者の視点に立った医療の実践という本学学是「仁」（人を慮る心、慈しむ心）を、「がん生涯教育センター」の活動を通して、がんに係わる多くの方々と共有する。

1-5 養成コース

大学名	研究科等名	専攻名	コース名
順天堂大学	医学研究科	環境と人間専攻、人体の生命機能専攻、人体の再生・再建専攻	医師（放射線療法、化学療法、緩和ケア）
新潟大学	医歯学総合研究科	分子細胞医学専攻、生体機能調節医学専攻、地域疾病制御医学専攻	医師（放射線療法、化学療法）
順天堂大学	医療看護学研究科	看護学専攻	コメディカル（がん専門看護師）
明治薬科大学	薬学研究科	臨床薬学専攻	コメディカル（がん専門薬剤師）
東京理科大学	薬学研究科	薬学専攻	コメディカル（がん専門薬剤師）
順天堂大学	医学研究科	環境と人間専攻、人体の生命機能専攻、人体の再生・再建専攻	コメディカル（医学物理士）
立教大学	理学研究科	物理学専攻	コメディカル（医学物理士）
順天堂大学	医学研究科	環境と人間専攻、人体の生命機能専攻、人体の再生・再建専攻	インテンスブ（医師、医学物理士）
立教大学	理学研究科	物理学専攻	インテンスブ（医学物理士）

1-6 養成計画

本学大学院は、本プラン全体を統括し、専門医師（放射線療法、化学療法、緩和ケア）とコメディカル（がん専門看護師、医学物理士）の養成を担当する。また新潟大学は専門医師（放射線療法、化学療法）、東京理科大学大学院と明治薬科大学大学院はコメディカル（がん専門薬剤師）、立教大学大学院はコメディカル（医学物理士）をそれぞれ分担して養成する。

● 専門医師コース

専門医師コースは、日本がん治療認定医機構のがん治療認定医を取得するとともに、放射線療法・化学療法・緩和ケアの専門医師養成を行う。開講は、順天堂大学及び新潟大学において行う。臨床での養成に当っては、本学では本学附属病院群のほかに、癌研有明病院、東京都立駒込病院、静岡県立静岡がんセンターと連携している。新潟大学では同付属病院と新潟県立がんセンター新潟病院と連携している。

開講は平成20年度から。

● コメディカル・コース

コメディカル・コースでは、がん看護師、がん薬剤師、医学物理士を養成する。養成はがん看護師を本学大学院で、がん薬剤師を明治薬科大学大学院と東京理科大学大学院で、医学物理士を本学大学院と立教大学大学院の連携で行う。養成に当っては各専門資格取得のための学習ばかりではなく、チーム医療を学ぶ実践的な教育を整備している。

開講は平成20年度。

● インテンシブ・コース

インテンシブ・コースでは、専門医師と医学物理士のインテンシブ研修を行う。専門医師研修では、がん治療認定医取得を目的とした養成プログラムを本学大学院において行う。医学物理士については、臨床研修を本学大学院において、基礎物理の研修を立教大学大学院において行う。いずれのインテンシブ研修も実施する大学院の科目等履修生として学習する。

専門医師の開講は、平成19年10月。

医学物理士の開講は、平成20年度。

2. 本事業の目的・必要性

2-1 全体

本事業の全体の目的は、本学におけるがん医療の改善を図り、「がんプロフェッショナル養成プラン」の目的であるわが国における質の高いがん専門医等の養成に資するため、主として本学を核として全コースに共通科目を設定し、他の4大学及びがん拠点病院群と連携し、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持ち、かつ高い研究能力を持つがん専門医等、がんの特化した医療人材の養成を図ることである。

2-2 本年度

平成19年度からの初期事業をインテンシブ・コースとして実施し、専門医師養成における取組の充実・発展を図り、本取組を具体例として拡充し、「がん生涯教育センター」を創設する。また公開シンポジウム（国内）、国際シンポジウムを開催し、本事業の広報に努めるとともに、次年度開始する専門医師コースとコメディカル・コースの体制整備を行い、実践的で横断的な体制をもって、高等教育機関におけるがん教育に関する教育研究・診療環境の強化を図る。

3. 本年度の本事業実施計画

本年度の本事業の目的を達成するため、次の項目を実施する。

- ① がん生涯教育センターの創設及び事務局の設置
- ② がん生涯教育センター運営委員会の設置
- ③ 客員教授等の任用
- ④ 連携大学院連絡会および連携医療機関会議
- ⑤ 公開シンポジウム
- ⑥ がん治療センター関連診療科会議
- ⑦ オーガナイザーミーティング
- ⑧ FD (Faculty Development) 研修会の開催
- ⑨ 連携大学院・協力病院へのテレビ会議システムの整備
- ⑩ インテンシブ・コースの実施
- ⑪ 国内外研究機関へのFD研修派遣
- ⑫ 大学院入学試験の実施
- ⑬ 全体会議の実施

4. 本事業の内容

本事業は、選定された「実践的横断的がん生涯教育センター創設」プランにおけるがん専門家について、がん専門医師とがんコメディカルに関する養成の一層の充実・発展を目指すものであり、内容は以下のとおりである。

これらの内容を通じて、選定取組を更に充実・発展させ、「がん生涯教育センター」の目的である「がん患者」の視点に立った「がん医療人」を養成する。

4-1 がん生涯教育センターの創設及び事務局の設置

がん生涯教育センターを9月に本学大学院医学研究科に開設。事務局は事業発足当初の業務を勘案し当面本学大学院事務室に置いた。新潟大学を実施体制に加えるための事業内容等変更承認申請し承認された。本取組の実施体制を整備した。

4-2 がん生涯教育センター運営委員会の設置

運営委員会を10月22日に開催し、参加大学における本取組全体のコンセンサスを共有化した。

4-3 客員教授等の任用

客員教授として東京理科大学1名と立教大学2名を任用した。当初予定していた教員（医師）と事務補佐員の採用については適任者を選任できなかった。次年度の採用計画とした。

4-4 連携大学院連絡会および連携医療機関会議

連携大学院連絡会を11月8日に開催し、今年度と次年度の養成計画を協議した。連携医療機関とは全体会ではなく個別に実地修練に関する事項の協議をした。

4-5 公開シンポジウム

市民公開シンポジウム「がんの克服へ」（10月22日）（参加者数366名）と国際シンポジウム「New Era of Cancer Education」（2月20日）を開催し、本取組の国内外への広報と海外におけるがん教育を比較検討した。また平成19年度大学教育改革プログラム合同フォーラムのポスターセッションに参加して本取組を紹介した。

4-6 がん治療センター関連診療科会議

本学がん治療センターの各科と来年度以降の実地修練運営についてオーガナイザーを中心として協議した。

4-7 オーガナイザーミーティング

各連携大学院においてオーガナイザーミーティングを開催し次年度授業実施に必要な措置を行った。

4-8 FD (Faculty Development) 研修会の開催

FD (Faculty Development) 研修については、既に今年度実施済の大学もあったため次年度開催することとした。

4-9 連携大学院・協力病院へのテレビ会議システムの整備

本取組に係る運営を円滑にするためのテレビ会議システムを各連携大学院に配備した。

4-10 インテンシブ・コースの実施

インテンシブ・コース(がん専門医師コース)を本学大学院医学研究科において12月から2月に実施し、15名の参加があった。開講にあたっては受講カードを作成した。

4-11 国内外研究機関へのFD研修派遣

米国フロリダ大学での医学物理士養成課程研修に教員1名を派遣した。

4-12 大学院入学試験の実施

各連携大学院において入学試験を実施した。広報用に共同の入試広報ポスターを作成した。

4-13 全体会議の実施

全体会議は運営委員会をもってこれに代えることとした。

5. 本事業から得られた具体的な成果

上記の本年度の本事業実施計画を実施することにより、本事業から得られた具体的な成果は、以下のとおりである。

5-1 がん生涯教育センターの創設及び事務局の設置

がん生涯教育センターと事務局を開設することによって本取組が実質的に開始し、本取組に参加している各大学において、がん専門人材養成に関する教員意識の向上を図ることができた。

5-2 がん生涯教育センター運営委員会の設置

運営委員会の開催によって各養成プログラムに関する相互理解が高まり、連携大学院としての相互協力体制の強化を図ることができた。

5-3 客員教授等の任用

客員教授の任用によってがん薬剤師養成と医学物理士養成における連携体制をスムーズに図ることができた。

5-4 連携大学院連絡会および連携医療機関会議

連携大学院連絡会によって参加大学の横断的な協力体制が相互理解され、各参加大学固有の運営体制の相違を調整することができ各参加大学における取組改善を促進することができた。

5-5 公開シンポジウム

市民公開シンポジウムにより本取組の公表と普及につながり、国際シンポジウムでは米国の事例に基づき医師、看護師、薬剤師、医学物理士に関するがん教育体制や教員養成の方向性、コメディカルの役割について討議し、今後のがん教育の改善に関する知見が得られた。

5-6 がん治療センター関連診療科会議

本学がん治療センターにおける関連診療科と協議し、実地修練プログラムに関する教員の意識改善を図ることができた。

5-7 オーガナイザーミーティング

各連携大学院でのオーガナイザーミーティングにおいて、本取組申請時に策定した当初養成プログラムを再点検する過程で、授業担当教員のがん教育に対する意識向上が図られた。

5-8 FD (Faculty Development) 研修会の開催

FD (Faculty Development) 研修会については次年度開催予定。

5-9 連携大学院・協力病院へのテレビ会議システムの整備

連携大学院にテレビ会議システムを配備することで、遠隔教育やテレビ会議を試行し、次年度以降の教育研究の実施体制の強化を図ることができた。

5-10 インテンシブ・コースの実施

インテンシブ・コースを開催したところ参加者の学習意欲が非常に高いことが明らかとなった。受講カードの作成は高い出席率を維持する一助となった。

5-11 国内外研究機関へのFD研修派遣

FD研修派遣として米国の医学物理士養成課程に1名派遣し、帰国後の当該分野における教育研究等に関する指導強化を図った。

5-12 大学院入学試験の実施

次年度に向けてがん専門医師、がん専門看護師、がん専門薬剤師、医学物理士の各養成コースの大学院入学試験と医学物理士インテンシブ（基礎）・コース選考を実施した。

5-13 全体会議の実施

全体会議は運営委員会に代えることとした。

6. 設備備品費補足表

	<p>拠点テレビ会議システム専用機器一式（運営委員会等がんプロ専用） Web カメラ付専用 PC（機器がタイズ費用含む） 30台 10,500千円 H19.10.15</p>
①	<p>本設備備品は、選定事業における専門医養成コース、コメディカル・コースに係る各医療連携機関及び各研究機関における、教育研修体制の確認と指導方法の徹底、並びに各種委員会を行うことを目的として、各コースを実施する機関の、指導者側が教育研究環境強化のために機器設置を行うものである。</p> <p>特に19年度は本拠点整備のため、試験的運用を行いつつ、各機関（3大学、5医療機関及び順天堂6付属病院）での20年4月からの大学院コースワーク及び各委員会が円滑に実施できるよう整備する。また利用頻度は、本年度は各コース学生募集前でもあり、毎日×数分程度の試験運用を予定しているが、次年度より本取組が本格化するに伴い、将来的（次年度以降）は常時接続体制になる見込みである。</p> <p>なお、同設備はカメラ付という特殊な装置であり、情報管理の面からも既存設備への改造より、専用機器であることが好ましく、学内には本システムに代替できる設備備品がない。また、同設備を借入した場合、金利等手数料を含めると購入したほうが経済的であり、金利手数料分での他の設備が購入可能なことから初年度一括購入がより経済効率が良いと判断した。</p>
②	<p>情報管理用 PC（HP サーバー機） 一式 1,000千円 H19.10.15</p> <p>本設備備品は、選定事業における専門医養成コース、コメディカル・コースに係る情報管理用に特別に用意し、データベース構築を行うことを目的として、各コースの、教育研究環境強化のために設置を行うものである。</p> <p>利用頻度は、稼働とともに常時接続体制になる見込みである。</p> <p>なお、同機器で、各連携機関の情報管理を行うことから、外部への情報流出がないようなセキュリティを構築する。同等機能を有する代替設備は学内になく、より安全面を徹底させるためにも設備を購入し、また本学情報センターのセキュリティ管理下で一層の安全環境を徹底させたい。</p>
③	<p>連携大学院・病院 PC（研究用がんデータベース構築・管理用） 9台 2,700千円 H19.10.15</p> <p>本設備備品は、選定事業における連携大学院、連携医療機関に係るカリキュラム管理用に特別に用意し、がんプロフェッショナル事業に特化した情報管理を行うことを目的として、各機関の、指導環境強化のために設置を行うものである。</p> <p>利用頻度は、稼働とともに常時接続体制になる見込みである。</p> <p>なお、同設備は、「がん」という特殊な情報を扱うため、入力・管理の専用機器であることが望ましく学内の同等品での対応は管理上適切ではないと判断した。また設備借入での対応は、借入期間満了後、秘匿情報が外部に流出ということも想定されることから、安全面を考慮し、設備の購入が適当と判断した。</p>

④	<p>通信教育システム 遠隔学習支援システム一式及び3eConference License 一式 28,200千円 H19.12.15</p>
	<p>本設備備品は、選定事業におけるがん生涯教育センターで実施する授業に係る他の大学院・医療機関において受講することを目的として、通信教育に関する環境の整備を行うものである。特に19年度は本拠点整備のため、試験的運用を行いつつ、各機関（3大学、5医療機関及び順天堂6付属病院）での20年4月からの大学院コースワーク及び各委員会が円滑に実施できるよう整備する。また利用頻度は、本年度は各コース学生募集前でもあり、毎日×数分程度の試験運用を予定しているが、次年度より本取組が本格化するに伴い、将来的（次年度以降）は常時接続体制になる見込みである。</p> <p>なお、同システムは、新規システムのため学内に代替できるものがなく、またセキュリティ確保の観点から購入での導入がより安価であり、経済効率が良いと判断した。</p>